

## 底部に穿孔のある弥生土器

太田 昭夫

ここに紹介する弥生土器は、昭和45年行われた二屋敷遺跡の発掘調査の際に、現在東北歴史資料館に勤務する藤沼邦彦氏が地元の方からもらい受けたものである。現在は東北歴史資料館に保管されているが、今回藤沼氏の御好意によってここに紹介することができた。深く感謝の意を表したい。

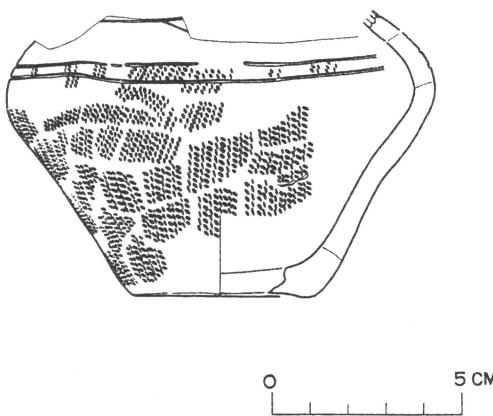
出土地は蔵王町宮に所在する二屋敷遺跡の西方付近と言うが、詳しい地点や出土状況については不明である。

そこは、白石川の支流である松川の形成した河川段丘上にあり、周辺には、長峰遺跡、明神裏遺跡、沢北遺跡、下別当遺跡など弥生時代の遺跡が数多く分布している(白石市：1976)。

本土器は、口縁部が欠失している。器形は体部下半が外傾し、体部中央のやや上位で強く内側に屈曲する。形態的には、小形の壺形土器と推定される。現在高は7.5cm、底径は4.8cmである。外面の文様としては、体部下半は地文としての付加縄文(L R + 2 R)が横方向に施紋されている。屈曲部に一部はとぎれるが下半の付加縄文とを区画するように、1本工具による沈線が2本平行にめぐっている。その上位にも1本工具による沈線が認められる。その後、沈線施文部分はヘラミガキで調整されているが、それが徹底されず、沈線間に部分的に付加縄文が残る。体部内面は、ヘラ状のものでナデた後、荒いヘラミガキが施されている。また、成形時の粘土の積み上げの痕跡が認められる。焼成は良好で、胎土には砂粒を含むがそれほど多く

はない。色調は外面灰白色(部分的に黒みがある)、内面は浅黄橙色を呈する。底部のほぼ中央に径約2cmの大きさの孔が焼成後に穿たれている。その残存する底部の外面には、木葉痕が認められる(図版1)。

本土器は、器形や、一本工具による沈線文施文などの特徴からみて、同町西裏より出土し、円田式の標準資料として知られている、長頸の壺に近似する。このような一本工具による沈線文土器は特に蔵王町などに広く認め



られ、その地文に本土器と同じく、付加縄文を施文するのが比較的多い。

底部に穿孔のある弥生土器は、宮城県内及び近県から、それほど多くはないが出土している。これらはすべて焼成後に穿孔されている。県内では、南小泉遺跡、西台畠遺跡に出土例があり前者では合口甕棺及び壺棺として使用したとみられる甕、壺の中に(伊東：1950)，後者では合口甕棺の蓋として使用されたとみられる台付鉢に(伊藤：1958)，底部穿孔が認められる。西台畠遺跡からは、その他にも底部穿孔のある小形壺が2点出土している。

岩手県常磐遺跡でも甕棺とみられる合口土器の1点に底部穿孔がみられる(伊東：1954)。

福島県では、陣場、鳥内、柏山、大畠G、天神原、愛谷、宮崎の各遺跡に出土例がみられる。鳥内、宮崎の両遺跡では複数の土器が埋設される小豎穴が多数発見されており、これらは再葬墓の性格を持つものと考えられている。鳥内遺跡では、その埋設土器の中に、底部穿孔のある大形壺が1点含まれていた(目黒：1971)。鳥内遺跡ではその他にも埋葬に関係するとみられるピット上から垂玉を納めた底部穿孔の壺が出土している。宮崎遺跡でも大形の壺に底部穿孔がみられる(周東、佐藤：1978)。柏山遺跡、陣場遺跡では墓としての性格をもった土壙が多く発見されており、その土壙に埋置したとみられる土器の中で、柏山遺跡では壺の(伊東他：1972)，陣場遺跡では、壺と鉢の底部に穿孔が認められる(馬目：1971)。

天神原、愛谷遺跡では、合蓋土器棺と呼称されている土器の中に底部穿孔がみられる。天神原遺跡では24基の合蓋土器棺の内、半数の12基の土器に、それも下方の正立した土器にのみ、底部穿孔が認められている(馬目他：1979)。

山形県では、堂森遺跡H地点に出土例がある。埋葬に関連のピットからの出土で、蓋と合口の形で発見されたと言う(加藤：1975)。この他にも同遺跡出土土器の中で、手塚孝氏蔵の合口土器の内、蓋の方に底部穿孔が認められる(まんぎり会：1977)。

以上が、県内及び近県において知り得た弥生土器の底部穿孔の類例であるが、これらから、底部穿孔土器の多くは、埋葬に関連性をもっていることがうかがわれる。したがって本土器も埋葬に関連した土器であった可能性が強い。また、これらの底部穿孔土器は大きく合口甕棺や合蓋土器棺のように、埋葬それ自体に使用された土器の中に見い出されるものと、土壙墓などに埋置された土器の中に見い出されるものに分けることができる。憶測ではあるが、本土器は小形の壺型土器という点で柏山遺跡の例に類似することから、後者の性格が強いと思われる。

#### 引用・参考文献

白石市(1976)：「考古資料篇」『白石市史』別巻

- 伊東信雄(1950)：「仙台市内の古代遺跡」『仙台市史』Ⅲ
- 伊藤玄三(1958)：「仙台市西台畠出土の弥生式土器」『考古学雑誌』第44巻第1号
- 伊東信雄(1954)：「岩手県佐倉河村発見の弥生式遺跡」『古代学』第3巻第2号
- 目黒・柴田編(1971)：「鳥内遺跡発掘調査概報」
- 周東・佐藤(1978)：「第三次岩代国宮崎遺跡調査概報」
- 伊東信雄他(1972)：「柏山遺跡発掘調査報告書」
- 馬目順一(1971)：「岩代陣馬遺跡の研究」
- 馬目順一他(1979)：「天神原遺跡調査概報」
- 加藤 稔(1975)：「米沢市八幡原埋蔵文化財調査報告」第1集
- まんぎり会(1977)：「米沢の限始古代—I 遺物編」
- みちのく考古学研究会(1976)：「東日本弥生時代墓址集成」『遮光器』第10号